

(様式2)

校種	小・ $\text{\textcircled{中}}$ どちらかに○	学校番号	14	学校名	宇都宮市立国本中学校
----	---------------------------------------	------	----	-----	------------

## 令和7年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから(令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」より)

【国語】…全ての事項・領域で、市・県の平均を下回った。特に差が大きかった領域は前年度と同じく「書くこと」で、県の平均を14.7ポイント下回っている。特に、「段落構成で文を書く」問題においては、県の平均を17.3ポイント下回った。また「我が国の言語文化に関する事項(古典)」のうち、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く」問題では、4割以上が無解答であった。「古典」については例年正答率が低いため、特に重点として指導したい。

【社会】…「地理」「歴史」のいずれの領域も市・県の平均を下回った。「地理」の「複数の資料から、リビアの課題を記述する問い」から、複数の資料から必要な情報を読み取り、考えをまとめて記述するような問題に対する正答率が低いことが分かる。例年、「地理」「歴史」のいずれの領域でも「複数の資料を読み取り解答する問題」に課題があるため、特に重点として指導したい。

【数学】…「図形」の領域で、市・県の平均を上回った。「数と式」の領域でも、県の平均を上回っている。基本的な計算問題では市平均正答率を上回るものが多いが、計算の工夫や方程式の利用などの応用問題では課題が見られる。他の領域についても、「知識・技能」を問う問題では概ね市平均正答率と同程度であり、観点別で見ると「知識・技能」は市・県の平均を上回っている。反比例の関係の理解不足や円が絡む計算など、小学校算数の定着度の課題は本校でも例年見られてきた。今後も1年次に丁寧に指導したい。

【理科】…「生命」と「地球」の領域で、市・県の平均を上回った。「粒子」の領域では、実際に目に見えないものを可視化する視覚的な支援が有効である。また、例年の傾向であるが、少数の掛け算、割り算、百分率など、基本的な計算能力や知識に課題がある(数学科との関連)ため、教科横断的な指導が必要である。「知識・技能」の観点では、県の平均を上回り、「思考・判断・表現」の観点では市・県のいずれも上回った。一人一台端末を活用し校庭で生物を動画撮影したり、近隣の田んぼで採集したミジンコで顕微鏡観察を行ったりし、興味・関心を高める工夫が有効であった。

【英語】…「書くこと」の領域で県の平均を上回った。最も差が大きかった領域は「聞くこと」で、市平均を8.2ポイント下回った。例年の傾向同様、対話の内容を聞き取り適切に応答する問題や、読み取った内容を踏まえて対話を完成させる問題(活用)において課題があり、聞いたり読んだりして理解した内容に適切に応答することに困難さがある。改善に向け、既習事項の復習を兼ねて、日々の授業で短い英文を書かせる活動を取り入れたい。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから(令和7年度「宇都宮市学習内容定着度調査」)

ここ数年継続して、①教員の授業力の向上、②学びに向かう力の育成、③家庭学習の習慣化の3点について、具体的な取組を行ってきたが、「学校の授業がどの程度分かりますか。」の質問項目では、1学年で81.0(市83.7、本校昨年度77.4)ポイント、2学年で77.1(市79.1、本校昨年度81.0)ポイント、3学年で84.8(市81.4、本校昨年度78.6)ポイントと、3学年では市平均と本校昨年度肯定割合いずれも上回り、1学年で市平均を、2学年では市平均と本校昨年度肯定割合を下回っていることから、①～③の継続した取組と、日々の教材研究と各教科の授業改善に取り組んでいく。

「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか。」の質問項目において、平日の学習をほとんどしない生徒が1学年で4.2(市6.1、本校昨年度1.7)ポイント、2学年で5.9(市9.6、本校昨年度9.5)ポイント、3学年で4.5(市3.4、本校昨年度0.9)ポイントと、どの学年も昨年度同様非常に少なくなっており、生徒の学習に対する意識の改善が見られている。

「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の質問項目では、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒の割合は1学年で62.7(本校昨年度49.5)ポイント、2学年で57.6(本校昨年度74.3)ポイント、3学年で55.4(本校昨年度66.1)ポイントと、2,3学年では改善の傾向が見られる。1学年は家庭学習への取組は比較的良好であるものの、復習の習慣が定着していないことから、各教科で復習を宿題にするなど、習慣づけに向けた工夫をしていく。

### (3) 授業等への取組状況から

- ・授業の始まりには席につく、授業に必要な学習用具を忘れずに持ってくる、などの基本的な学習習慣について、市の平均と同程度ではあるが各学年課題が見られる生徒がいる状況である。
- ・課題の期限を守って提出できる生徒の割合は、全学年で市平均を上回っている。

## 2 今年度の重点目標

「宇都宮モデルに基づく授業改善を通し、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す」

## 3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和7年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

### (1) 基礎・基本の確実な定着

- ★小中一貫教育カリキュラムの推進（5月、8月、1月の研修を踏まえて通年）
- ★学力向上プログラム（独自）の「朝学習（テスト前2週間）」の実施
- ★自主学習ノート・スタンダードダイアリー・クロームブックの継続指導及び指導の工夫（通年）
- ★○発表の仕方やノートの取り方など言語環境の整備、基本的な学習態度・学習技能の定着、「学習の約束」の徹底（通年）
- 「AIドリルの活用・家庭学習」指導を視野に入れた授業づくりと、基礎的・基本的な知識の定着（通年）

### (2) 学習指導の工夫・改善（生徒を認め生かす授業の工夫）

- 宇都宮モデルに基づく授業改善の推進（通年）
- 「家庭学習がんばりの記録」の活用（通年）
- 校内授業研究会の活性化（通年）
- ★○「ノー部活デー」での家庭学習の推進（ありんこ学習室の利用）
- ★各種学習調査の結果の分析と公表
  - ・教科部会の定期的な実施と活性化（各調査の分析及び分析をもとにした指導の工夫・改善）
  - ・生徒一人一人の能力・適性等に応じた指導の充実（通年）
- ★効果的な発問、指示、助言、板書、ノート指導法の工夫と改善（通年）
  - ・指導と評価の一体化の推進（通年）
- ★学力向上推進リーダーの活用 ★学力向上コーディネーターの活用

### (3) 読書活動の充実

- ★全校読書の実施（週2～3）
  - ・ブックトークの実施（通年）
- 図書館だよりの発行（毎月）

### (4) 家庭・地域との連携・協力

- ★家庭・地域から協力を得た学校行事の実施
- ★学習及びキャリア指導から家庭学習の習慣化を図るための説明（保護者会、各種通信等）
- ★保護者・地域と連携した土曜授業の実施（全1回実施）
  - ①市一斉土曜授業